

**明治安田生命 「家計」に関するアンケート調査を実施！**  
**新型コロナの終息が見えないなか、7割の人が将来に対する不安あり！**  
**夫のおこづかいに大打撃！GW予算は昨年の半分以下に激減！**  
**そうしたなか、「巣ごもり」生活のための“思わぬ”出費も！**

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、「家計」に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

## 1. 新型コロナウイルス感染拡大の影響（詳細は5～15ページ参照）

### （1）家計への影響について

#### ■将来の家計について約7割の人が「不安」！

- ・不安要素は「給与・収入の不安」（62.2%）を筆頭に、「日用品、衛生用品などの備蓄品にかかる支出の増加」（46.7%）、「疾病にかかる医療費の増加」（42.5%）が続き、先行きが見えない生活への不安からか、約7割（71.1%）の人が将来の家計について「不安を感じる」と回答

#### ■「不安」は家計の切りつめへ！まずは夫の「おこづかい」に大打撃！

- ・昨年10月からの消費増税の影響や新型コロナウイルス感染拡大による将来への不安からか、まずは夫のおこづかいに大打撃
- ・夫のおこづかいは昨年から約4,000円ダウンとなり、リーマンショック時以来の大きな下がり幅に
- ・全体平均でも「26,384円」と昨年の「28,080円」を下回り、2年続いた増加傾向もマイナスに転じる結果に

#### ■今年のGW予算は昨年の半分以下に！

- ・今年のGWの予算は、4割を超える人が当初の予定から「減らす」と回答
- ・新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛の影響で、「レジャー計画を中止した」（48.8%）、「旅行計画を中止した」（47.1%）と、多くの人がGWの外出を取りやめ、「巣ごもり」生活に
- ・結果、GW予算は平均「23,010円」となり、今上天皇のご即位に伴う大型連休となった昨年の「47,249円」から半分以下に激減

### （2）消費支出の変化について

#### ■自宅で過ごす影響？ 外出自粛で“思わぬ”出費が増加！

- ・在宅勤務や学校の一斉休校に伴い、約半数の人が「食料品にかかる費用」が増えたと回答
- ・GW中の旅行などを取りやめ大型出費を抑える一方、「巣ごもり」生活のプチ充実のために「書籍の購入」（9.6%）、「ゲーム等の購入」（7.0%）、「有料の動画配信サービスの利用」（5.3%）等娯楽への出費や、自宅での子供の教育や自己啓発のための「通信教育・教材の購入」（3.8%）、さらには運動不足解消のための「フィットネス器具の購入」（1.4%）等、“思わぬ”出費もあり

明治安田総合研究所チーフエコノミスト小玉 祐一が、  
新型コロナウイルス感染拡大の影響について分析！

### (3) キャッシュレス決済の浸透について

#### ■決済手段の「キャッシュレス派」は昨年から2割増加し全体の約7割に！

- ・決済手段は「キャッシュレス派(クレジットカード・電子マネー等)」が約7割にまで浸透し、昨年調査時(52.5%)より約2割増加
- ・決済手段が「キャッシュレス派(クレジットカード・電子マネー等)」と答えた理由は「ポイントがつく等、経済的にメリットがあるため」と答えた人が多く、利用者の月平均額も「74,288円」と昨年の約3倍に
- ・消費増税に伴うポイント還元策の効果もあり、キャッシュレス決済が浸透するなか、「巣ごもり生活」が続けば、自宅でのネットショッピングなど非対面によるキャッシュレス決済もさらに増加する可能性あり？

明治安田総合研究所チーフエコノミスト小玉 祐一が、  
キャッシュレス決済の浸透について分析！

## 2. 貯蓄額について (詳細は16～17ページ参照)

#### ■貯蓄額は年々増加し、平均「1,512万円」に！

- ・全体の平均貯蓄額は昨年から219万円増加し、男性は昨年から133万円、女性は290万円増加
- ・年代別にみると、60代～70代は2,000万円を超える結果に
- ・貯蓄目的のトップは「将来のため」(65.5%)、次いで「いざという時のため」(58.3%)となり、「人生100年時代」をふまえた老後資金の備えなど貯蓄額が昨今増加傾向にあるなかで、調査開始以来初めて1,500万円を突破！今後の将来への不安が加わると、さらに増加する可能性あり？

明治安田総合研究所チーフエコノミスト小玉 祐一が、貯蓄額について分析！

## 対象者の属性

1. 調査対象

20～79歳の既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2020年4月2日(木)～4月9日(木)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,620人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
男性	135	135	135	135	135	135	810
女性	135	135	135	135	135	135	810
計	270	270	270	270	270	270	1,620

## 【 目 次 】

### 1. 新型コロナウイルス感染拡大の影響

- (1) 将来の家計の不安 . . . . . 5 ページ
- (2) 夫婦のおこづかい . . . . . 7 ページ
- (3) 今年のGW予算 . . . . . 9 ページ
- (4) 外出自粛による支出の変化 . . . . . 11 ページ

明治安田総合研究所チーフエコノミスト小玉 祐一が、  
新型コロナウイルス感染拡大の影響について分析！

- (5) キャッシュレス決済の浸透 . . . . . 13 ページ

明治安田総合研究所チーフエコノミスト小玉 祐一が、  
キャッシュレス決済の浸透について分析！

### 2. 貯蓄額について

. . . . . 16 ページ

明治安田総合研究所チーフエコノミスト小玉 祐一が、  
貯蓄額について分析！

# 1. 新型コロナウイルス感染拡大の影響

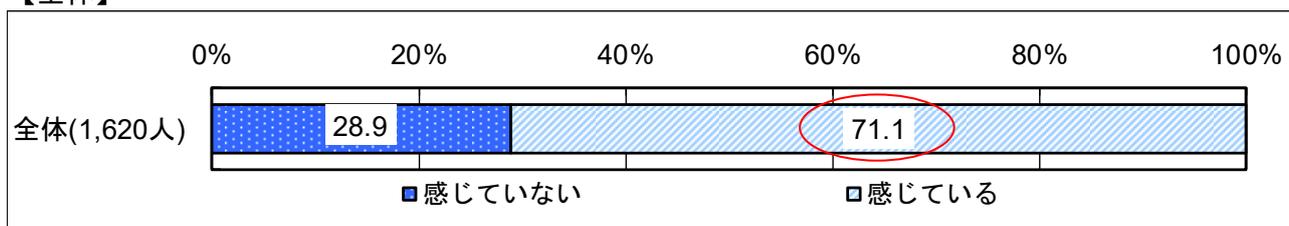
## (1) 将来の家計の不安

**新型コロナウイルス感染拡大の影響について、約7割の人が「不安」と回答！  
給与・収入の減少や備蓄品購入費・医療費の増加懸念が大きく影響！**

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響による将来の家計の不安について聞いてみました。
- 「不安を感じる」と答えた人は実に全体の約7割（71.1%）となり、終息がみえない状況に多くの人々が家計について不安を抱えていることがうかがえます。
- 職業別では、「会社役員・経営者」（77.3%）、「自営業・自由業」（75.8%）が上位を占めました。
- 「不安を感じる」理由としては、「給与・収入の減少」（62.2%）がトップとなり、次いで「日用品・衛生用品などの備蓄品購入にかかる支出の増加」（46.7%）、「疾病にかかる医療費の増加」（42.5%）と続きました。
- 年齢別では、「給与・収入の減少」は30代が最も多く、「日用品・衛生用品などの備蓄品購入にかかる支出の増加」や「疾病にかかる医療費の増加」と答えたのは60代以上の高齢層が多い結果となりました。また、「食費の負担増加による出費の増加」については子育て世代となる30代～40代の女性が最も多くなりました。

### Q. 新型コロナウイルス感染拡大による将来の家計への不安を感じていますか

#### 【全体】



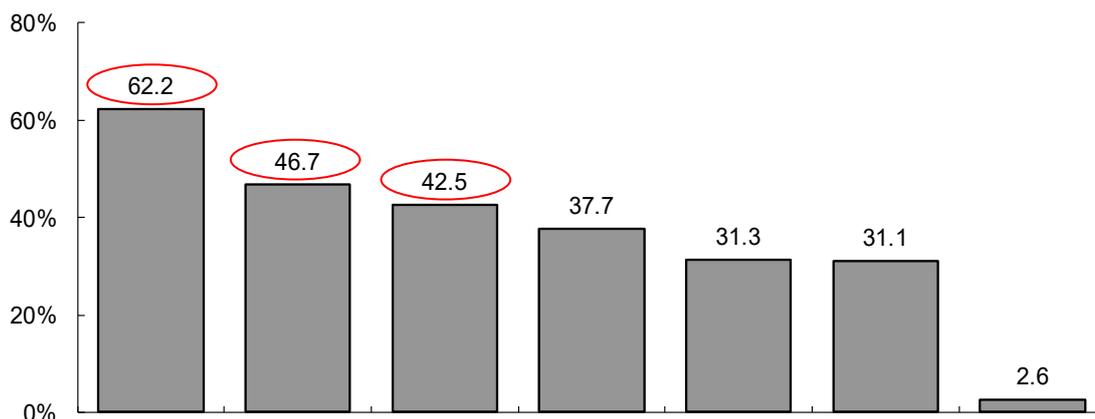
#### 【性別／年代別】

	男性			女性		
	回答者数 (人)	感じていない (%)	感じている (%)	回答者数 (人)	感じていない (%)	感じている (%)
男性計	810	28.5	71.5	810	29.3	70.7
20代	135	35.6	64.4	135	30.4	69.6
30代	135	25.9	74.1	135	25.9	74.1
40代	135	31.1	68.9	135	20.0	80.0
50代	135	25.2	74.8	135	34.1	65.9
60代	135	28.1	71.9	135	29.6	70.4
70代	135	25.2	74.8	135	35.6	64.4

#### 【職業別】

	回答者数 (人)	感じていない (%)	感じている (%)
全体	1,620	28.9	71.1
会社員	598	28.4	71.6
会社役員・経営者	22	22.7	77.3
公務員	71	39.4	60.6
自営業・自由業	91	24.2	75.8
パート・アルバイト	182	27.5	72.5
専業主婦(主夫)	490	29.4	70.6
無職	159	29.6	70.4
その他	7	28.6	71.4

Q. 「不安を感じる」と回答した方の理由は何ですか（複数回答）



	回答者数 (人)	給与・収入の減少	日用品、衛生用品などの備蓄品購入にかかる支出の増加	疾病にかかる医療費の増加	食費の負担増加による出費の増加	株価等の減少による貯蓄の減少	雇用不安	その他
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体	1,152	62.2	46.7	42.5	37.7	31.3	31.1	2.6
男性計	579	62.2	40.1	40.2	29.0	34.2	30.2	2.6
20代	87	65.5	33.3	29.9	23.0	26.4	37.9	1.1
30代	100	80.0	37.0	27.0	32.0	37.0	33.0	1.0
40代	93	71.0	37.6	30.1	28.0	29.0	37.6	2.2
50代	101	71.3	42.6	42.6	25.7	31.7	40.6	3.0
60代	97	51.5	44.3	53.6	29.9	37.1	25.8	3.1
70代	101	34.7	44.6	56.4	34.7	42.6	7.9	5.0
女性計	573	62.1	53.4	44.9	46.4	28.3	31.9	2.6
20代	94	72.3	58.5	38.3	47.9	27.7	45.7	-
30代	100	78.0	47.0	42.0	51.0	11.0	39.0	-
40代	108	74.1	55.6	33.3	57.4	25.0	38.0	3.7
50代	89	67.4	43.8	44.9	31.5	32.6	38.2	3.4
60代	95	44.2	56.8	51.6	37.9	36.8	18.9	4.2
70代	87	32.2	58.6	62.1	50.6	39.1	9.2	4.6

【職業別】

	回答者数 (人)	給与・収入の減少	日用品、衛生用品などの備蓄品購入にかかる支出の増加	疾病にかかる医療費の増加	食費の負担増加による出費の増加	株価等の減少による貯蓄の減少	雇用不安	その他
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体	1,152	62.2	46.7	42.5	37.7	31.3	31.1	2.6
会社員	428	73.6	41.1	37.1	31.5	32.5	43.2	1.6
会社役員・経営者	17	58.8	11.8	41.2	17.6	23.5	17.6	11.8
公務員	43	48.8	41.9	39.5	27.9	39.5	11.6	-
自営業・自由業	69	69.6	34.8	37.7	21.7	23.2	21.7	4.3
パート・アルバイト	132	72.7	56.1	40.9	51.5	25.0	46.2	1.5
専業主婦(主夫)	346	56.1	54.0	46.2	46.8	29.2	22.8	3.2
無職	112	25.0	49.1	58.0	33.9	43.8	6.3	4.5
その他	5	80.0	40.0	40.0	20.0	20.0	60.0	-

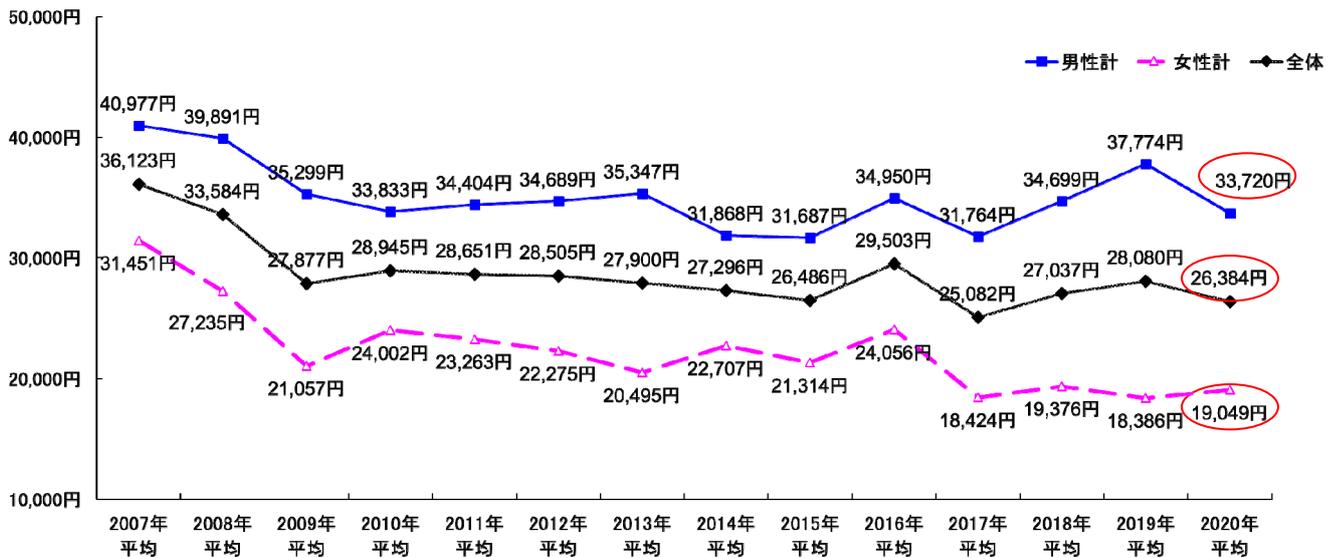
(2) 夫婦のおこづかい

おこづかい額は「26,384円」と2年連続した増加傾向がストップ！  
夫は昨年より約4,000円ダウン！リーマンショック時以降最大の下げ幅に！

- 夫婦のおこづかいの金額について聞いてみました。
- 全体の月平均額は、昨年から1,696円減少の「26,384円」となり、2018年以降2年連続した増加傾向がマイナスに転じました。
- 夫婦別にみると、妻はほぼ横ばいとなった一方、夫は約4,000円減少し「33,720円」となり、昨年10月の消費増税に加えて新型コロナウイルス感染拡大への不安からか、リーマンショック時以降最大の下がり幅となりました。
- また、希望するおこづかい金額を聞いてみたところ、全体では「34,854円」と実際の金額と約8,500円の差がありました。夫婦別では、夫は「43,881円」と実際の金額と約10,000円の開きが、妻も「25,828円」と約7,000円の開きがあります。

Q. 1ヵ月のおこづかい金額はいくらですか ※20代～50代調べ

【おこづかい金額の推移】



【おこづかい金額の詳細】

	回答者数 (人)	0円 (%)	～5千円 (%)	～1万円 (%)	～2万円 (%)	～3万円 (%)	～5万円 (%)	～10万円 (%)	10万円超 (%)	平均額 (円)
全体	1,080	12.9	9.2	16.6	17.4	19.4	16.2	7.4	1.0	26,384
夫計	540	8.7	4.1	12.6	17.8	21.9	23.1	10.4	1.5	33,720
妻計	540	17.0	14.3	20.6	17.0	16.9	9.3	4.4	0.6	19,049

Q. 1カ月に希望するおこづかい金額はいくらですか（金額回答）※20代～50代調べ

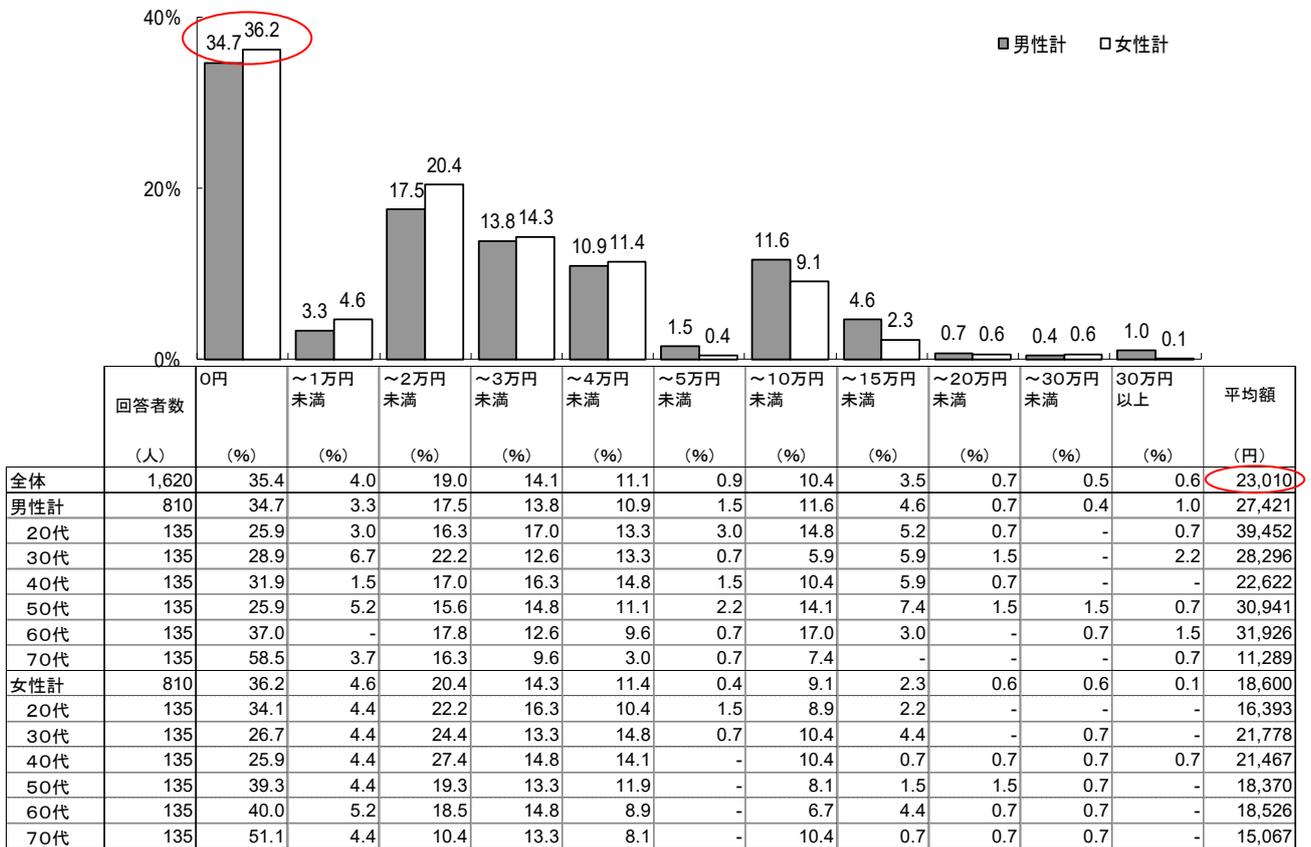
	回答者数 (人)	0円 (%)	～5千円 (%)	～1万円 (%)	～2万円 (%)	～3万円 (%)	～5万円 (%)	～10万円 (%)	10万円超 (%)	平均額 (円)
全体	1,080	9.3	5.5	14.2	13.6	19.4	25.6	10.5	2.0	34,854
夫計	540	7.0	2.4	6.9	10.7	22.4	32.2	15.6	2.8	43,881
20代	135	6.7	3.0	10.4	13.3	23.0	31.1	11.1	1.5	35,745
30代	135	9.6	2.2	3.7	13.3	23.0	32.6	11.1	4.4	45,415
40代	135	5.9	2.2	9.6	8.9	22.2	32.6	17.0	1.5	41,163
50代	135	5.9	2.2	3.7	7.4	21.5	32.6	23.0	3.7	53,200
妻計	540	11.5	8.5	21.5	16.5	16.3	19.1	5.4	1.3	25,828
20代	135	14.1	10.4	20.7	14.1	15.6	18.5	4.4	2.2	25,526
30代	135	12.6	10.4	18.5	16.3	14.8	17.8	7.4	2.2	28,519
40代	135	10.4	6.7	25.9	15.6	15.6	20.0	5.9	-	24,533
50代	135	8.9	6.7	20.7	20.0	19.3	20.0	3.7	0.7	24,734

(3) 今年のGW予算

**GWに使う平均予算は「23,010円」と昨年の半分以上に！  
外出自粛による旅行やレジャーの取りやめが大きく影響！**

- 今年のGWの予算や過ごし方について聞いてみました。
- GWに使う平均予算は「23,010円」となり、今上天皇のご即位に伴う大型連休となった昨年の「47,249円」の半分以上となりました。
- また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により当初予定したGW予算に変更があったかを聞いたところ、「減らす」と答えた人は調査時の4月初旬で既に4割を超え(43.1%)、外出自粛によりGW計画の変更を余儀なくされたことがうかがえます。
- 予算を「減らす」理由としては、「レジャー計画を中止したから」(48.8%)、「旅行計画を中止したから」(47.1%)と答える人が多く、結果、GWの過ごし方として「自宅で過ごす」と答えた人が約7割(66.3%)を占め、外出自粛が大きく影響する結果となりました。

**Q. 今年のGWにいくらくらいお金を使う予定ですか**



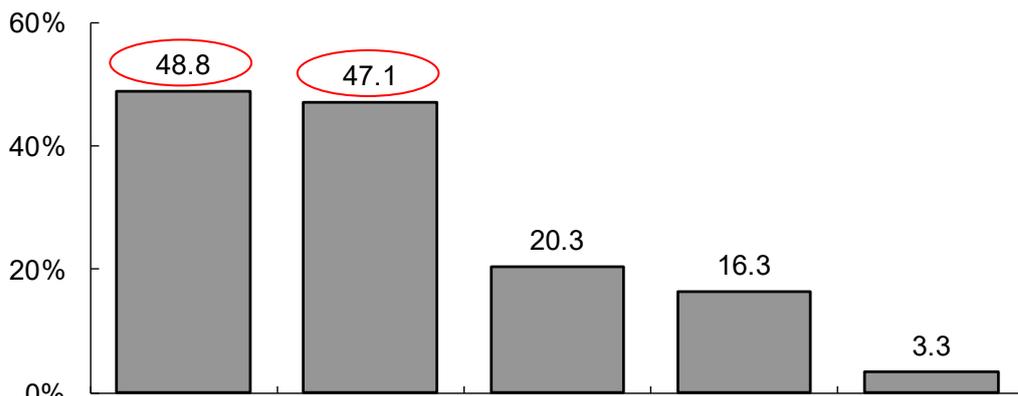
**Q. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により当初計画したGW予算に変更はありますか**

【「減らす」と回答した人の平均予算】

	回答者数 (人)	増やす (%)	減らす (%)	変わらない (%)
全体	1,620	2.3	43.1	54.5
男性計	810	3.2	43.6	53.2
女性計	810	1.5	42.7	55.8

	平均額
全体	51,323円
男性計	44,870円
女性計	57,908円

Q. 「減らす」と回答した方の理由は何ですか（複数回答）



	回答者数 (人)	レジャー計画を 中止したから (%)	旅行計画を中 止したから (%)	収入が減少し たから (%)	帰省計画を中 止したから (%)	その他 (%)
全体	699	48.8	47.1	20.3	16.3	3.3
男性計	353	48.7	48.4	22.1	13.3	2.3
20代	61	44.3	57.4	16.4	13.1	1.6
30代	67	49.3	49.3	23.9	11.9	3.0
40代	62	53.2	41.9	24.2	24.2	1.6
50代	49	53.1	44.9	24.5	18.4	-
60代	63	49.2	49.2	19.0	6.3	3.2
70代	51	43.1	47.1	25.5	5.9	3.9
女性計	346	48.8	45.7	18.5	19.4	4.3
20代	72	51.4	48.6	16.7	23.6	6.9
30代	71	47.9	33.8	16.9	33.8	2.8
40代	63	47.6	41.3	28.6	9.5	3.2
50代	47	55.3	44.7	23.4	21.3	4.3
60代	50	46.0	52.0	12.0	14.0	4.0
70代	43	44.2	60.5	11.6	7.0	4.7

Q. 今年のGWはどのようにして過ごしますか

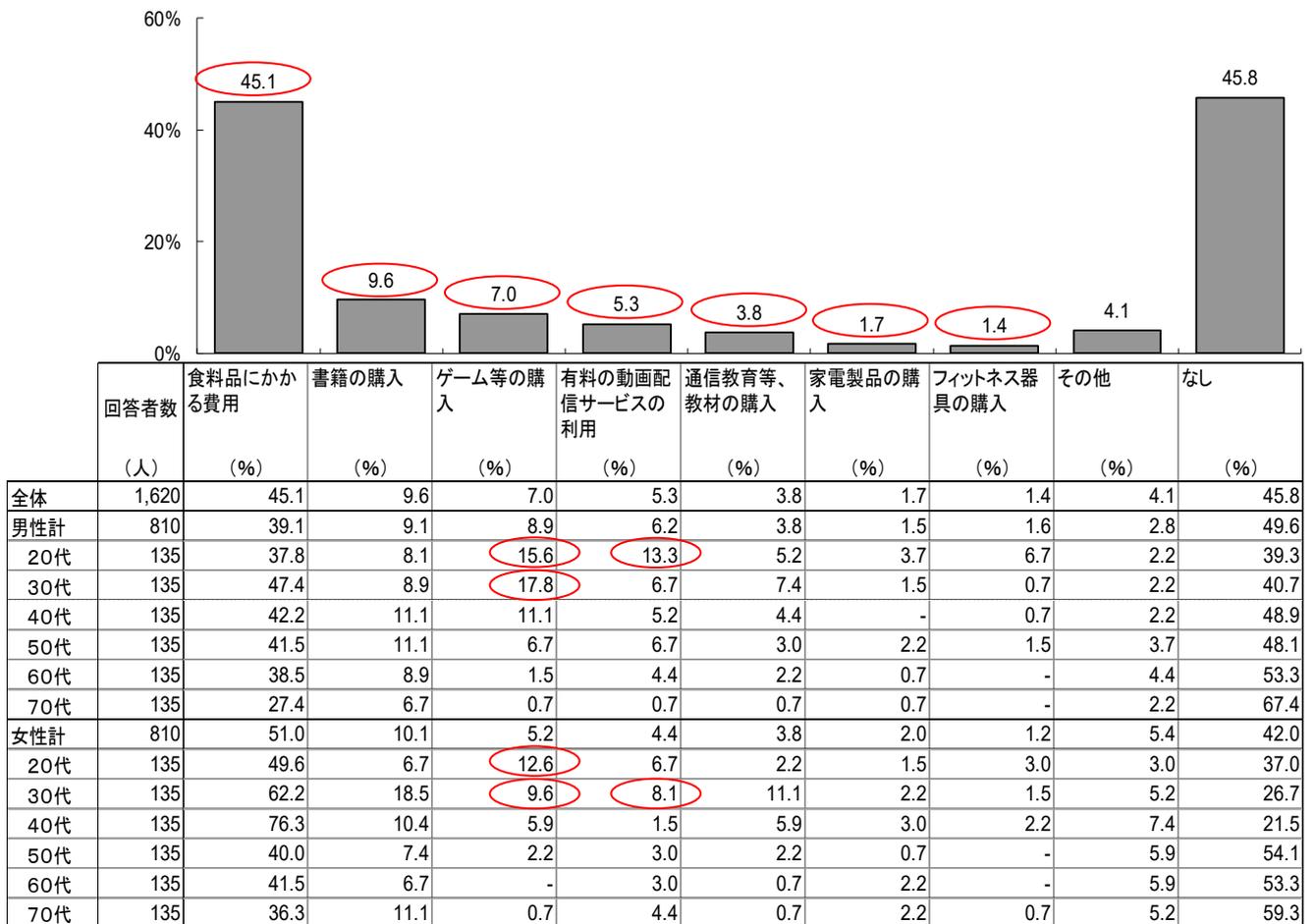
	回答者数 (人)	自宅で過 ごす (%)	国内旅行 (%)	帰省 (%)	アウトドア (%)	遊園地・ テーマパーク (%)	海外旅行 (%)	スポーツ観 戦 (%)	ボランティ ア (%)	その他 (%)	未定 (%)
全体	1,620	66.3	3.7	3.0	1.7	0.7	0.5	0.2	0.1	2.3	21.4
男性計	810	65.8	5.1	2.8	2.1	1.0	0.9	0.2	0.2	2.5	19.4
20代	135	55.6	12.6	4.4	2.2	3.0	2.2	0.7	1.5	2.2	15.6
30代	135	62.2	5.9	4.4	2.2	2.2	1.5	-	-	2.2	19.3
40代	135	60.0	3.7	1.5	3.0	0.7	-	0.7	-	3.0	27.4
50代	135	58.5	5.2	4.4	3.0	-	-	-	-	3.7	25.2
60代	135	78.5	2.2	1.5	1.5	-	0.7	-	-	1.5	14.1
70代	135	80.0	0.7	0.7	0.7	-	0.7	-	-	2.2	14.8
女性計	810	66.8	2.3	3.1	1.4	0.5	0.1	0.2	-	2.2	23.3
20代	135	58.5	3.0	9.6	2.2	2.2	0.7	-	-	-	23.7
30代	135	56.3	3.0	3.7	2.2	0.7	-	0.7	-	1.5	31.9
40代	135	65.2	3.0	3.0	1.5	-	-	0.7	-	3.7	23.0
50代	135	68.9	2.2	0.7	-	-	-	-	-	4.4	23.7
60代	135	74.8	3.0	1.5	1.5	-	-	-	-	1.5	17.8
70代	135	77.0	-	-	0.7	-	-	-	-	2.2	20.0

(4) 外出自粛による支出の変化

全体の約半数が「食料品にかかる費用」が増えたと回答！  
長引く「巣ごもり」生活を充実させるため、“思わぬ”出費も！

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で自宅で過ごすことが増えたことにより、増加した支出があるかについて聞いてみました。
- 全体では約半数（45.1%）、同居家族が4人以上では6割を超える人が「食料品にかかる費用」が増えたと回答しました。在宅勤務の広がりや各学校の一斉休校をうけ、家庭における昼食代等の増加が影響していると考えられます。
- 「巣ごもり」生活により“思わぬ”出費を行なう人もいます。 「書籍の購入」（9.6%）や、娯楽のための「ゲーム等の購入」（7.0%）、「有料の動画配信サービスの利用」（5.3%）、子供の教育や自己啓発のための「通信教育等、教材の購入」（3.8%）、また運動不足解消のための「フィットネス器具の購入」（1.4%）など多岐にわたり、今後外出自粛が長引けばさらに増加する可能性もあります。
- 「ゲーム等の購入」や「有料の動画配信サービスの利用」については、特に20代～30代の若い世代で多い結果となりました。

Q. 外出自粛の要請をうけ自宅で過ごすことが増えたことにより、増えた支出は何ですか  
(複数回答)



## 【同居家族人数別】

	回答者数 (人)	食料品にかかる費用 (%)	書籍の購入 (%)	ゲーム等の購入 (%)	有料の動画配信サービスの利用 (%)	通信教育等、教材の購入 (%)	家電製品の購入 (%)	フィットネス器具の購入 (%)	その他 (%)	なし (%)	
全体	1,620	45.1	9.6	7.0	5.3	3.8	1.7	1.4	4.1	45.8	
同居家族人数	1人	25	40.0	24.0	8.0	12.0	8.0	-	-	4.0	32.0
	2人	683	35.7	7.3	3.8	3.8	1.2	1.9	0.7	4.1	55.5
	3人	446	41.7	9.0	7.4	6.5	2.9	1.8	2.5	3.8	46.9
	4人	332	61.1	13.3	10.5	6.0	6.6	1.8	1.5	4.2	32.5
	5人以上	134	64.9	11.9	13.4	6.0	12.7	0.7	1.5	5.2	28.4

## ～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

### ■明治安田総合研究所チーフエコノミスト 小玉 祐一



●新型コロナウイルス感染拡大の影響で、足元の日本経済はかつてないほどのスピードで悪化を続けています。終息の時期が見通せないなか、将来の家計について「不安」と回答した人が7割に達したのは当然と言えるでしょう。実際、雇用調整の動きが中小企業を中心に広がるなか、所得の減少を余儀なくされる家計が急増しています。外出自粛が長引いていることもあって、レジャー、観光等の予算はもとより、外食や宿泊、その他不要不急のサービス支出が大きく減少しています。

こうしたなか、調査ではお父さんのおこづかいが大打撃を受けている様子が示されたほか、GWに使う平均予算も昨年の半分以下に減ってしまいました。一方で、45%の人々が食料品にかかる費用が増加したと回答しています。日本ではパニック的な買いだめの動きは限定的ですが、備蓄食料の購入量を少しずつ増やしている家庭は多いかもしれません。

他には書籍やゲーム、動画配信サービス、通信教育など、いわゆる「巣ごもり消費」と言われる分野が伸びています。特に通信関連の消費拡大の流れは、コロナ終息後も残るとみられ、中長期的には産業構造の変化のスピードを早める可能性があります。

## (5) キャッシュレス決済の浸透

**「キャッシュレス派(クレジットカード・電子マネー等)」は昨年より2割増加！  
外出自粛による「巣ごもり」生活で、さらに浸透の可能性も！**

○日常の決済手段について聞いてみました。

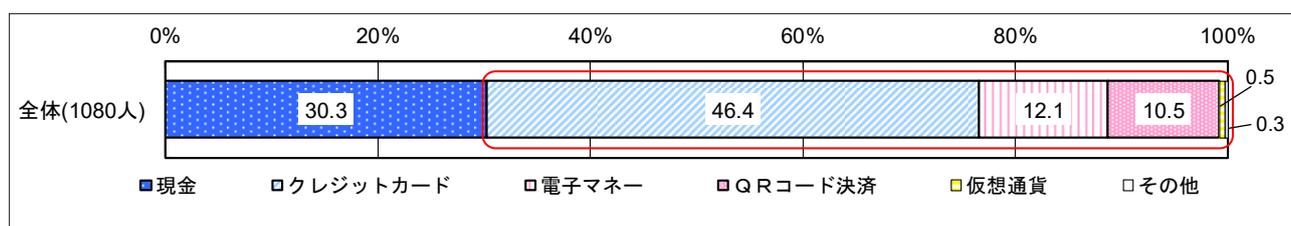
○決済手段は「現金」(30.3%)に対し、「クレジットカード」(46.4%)、「電子マネー」(12.1%)、「QRコード決済」(10.5%)、「仮想通貨」(0.5%)となり、昨年「現金派」と「キャッシュレス派」が半々であったのに対し、実に7割の人が「キャッシュレス派」となる結果となりました。特に「電子マネー」は昨年の1.9%から10.2ポイント増加、「QRコード決済」は0.6%から9.9ポイント増加となり、この1年における変化が顕著に表れました。

○決済手段が「現金以外」と答えた人の理由は、「ポイントがつく等、経済的メリットがあるため」(57.9%)が最も多く、次いで「現金を持ち歩く必要がなく、利便性が高いので」(25.1%)、「ネットショッピングにおいて必要なため」(11.3%)の回答が多い結果となりました。一方、決済手段が「現金」と答えた人は、「(現金以外の)必要性を感じないので」(33.0%)、「現金払いの方が浪費を防ぐことができるので」(29.1%)の回答が多い結果となりました。

○キャッシュレス決済を主に行なう人の月平均額は、「5万円以上～10万円未満」(22.6%)と答えた人が最も多く金額は「74,288円」となり、昨年から+50,041円と、約3倍に増加しました。

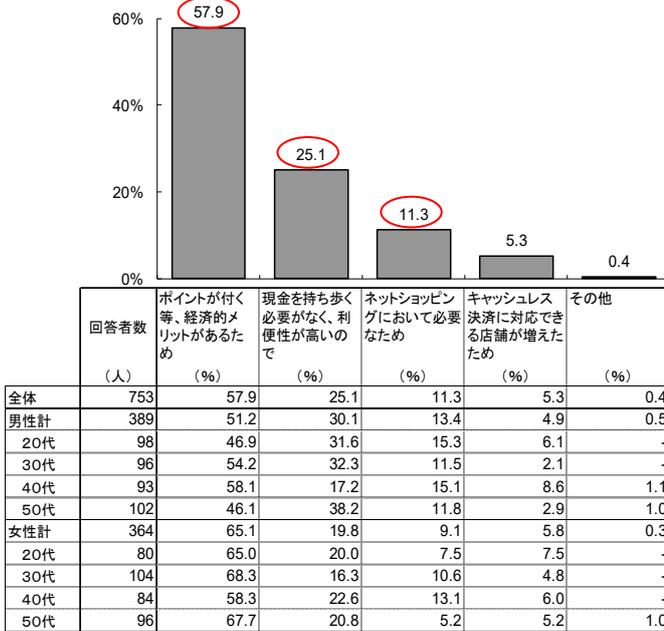
○昨年10月の消費増税に伴う政府のキャッシュレス・消費者還元事業や、還元キャンペーンが浸透するなか、新型コロナウイルス感染拡大による「巣ごもり」生活が続けば、スマホによる自宅でのネットショッピングなど、非対面のキャッシュレス決済もさらに普及していきそうです。

### Q. あなたが最も多く利用する支払い手段は何ですか ※20代～50代調べ

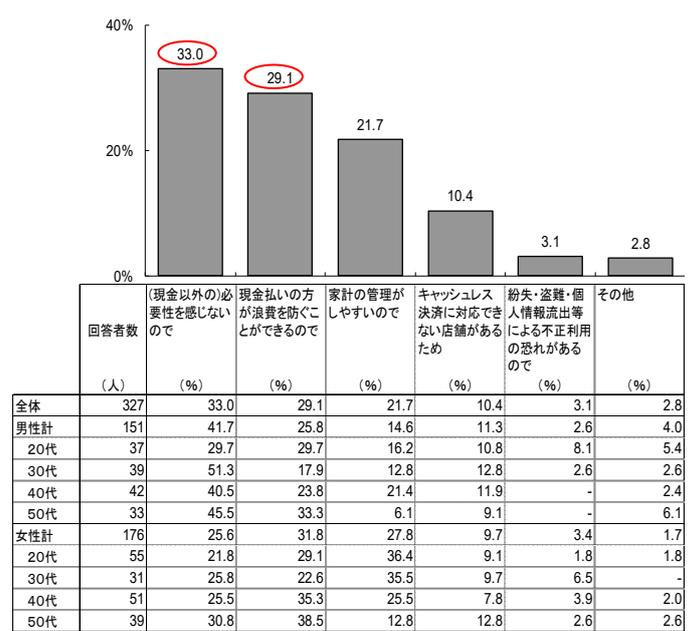


	回答者数 (人)	現金 (%)	クレジットカード (%)	電子マネー (%)	QRコード決済 (%)	仮想通貨 (%)	その他 (%)
全体	1,080	30.3	46.4	12.1	10.5	0.5	0.3
男性計	540	28.0	48.3	11.1	11.9	0.6	0.2
20代	135	27.4	51.9	12.6	7.4	0.7	-
30代	135	28.9	45.9	9.6	14.8	0.7	-
40代	135	31.1	44.4	8.9	14.1	0.7	0.7
50代	135	24.4	51.1	13.3	11.1	-	-
女性計	540	32.6	44.4	13.1	9.1	0.4	0.4
20代	135	40.7	40.0	7.4	11.1	0.7	-
30代	135	23.0	55.6	11.9	8.9	-	0.7
40代	135	37.8	37.8	14.8	8.1	0.7	0.7
50代	135	28.9	44.4	18.5	8.1	-	-

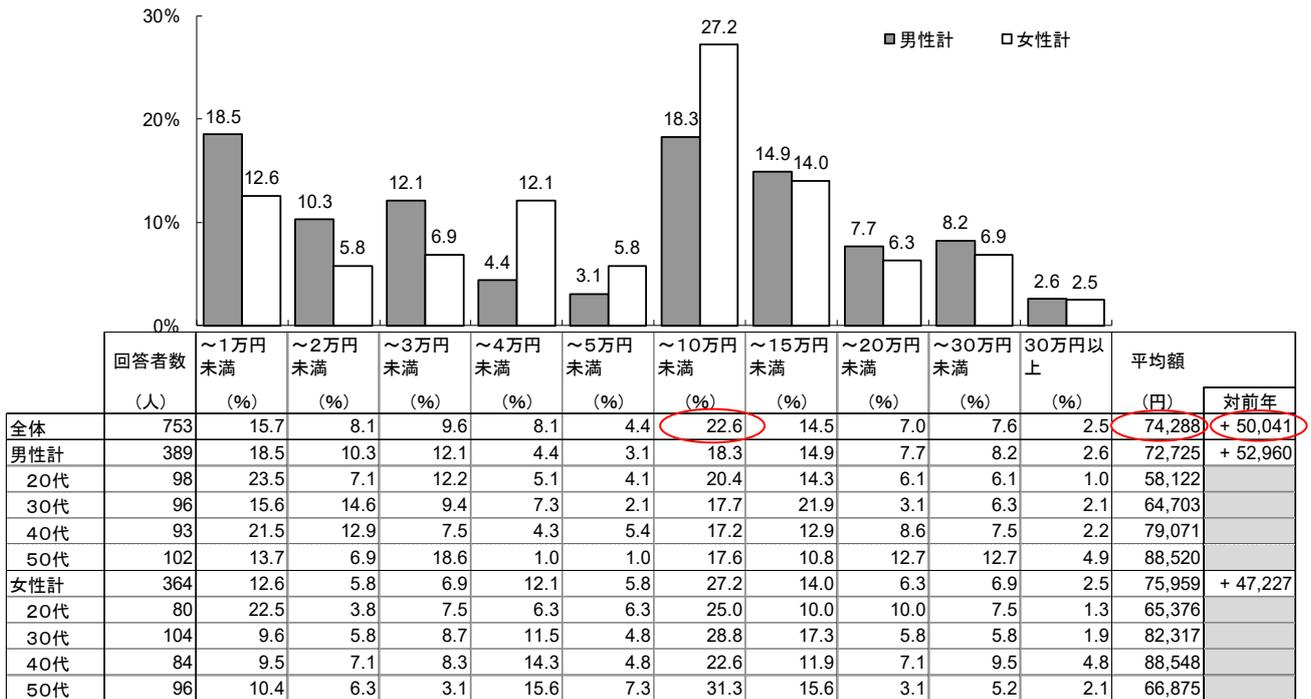
【決済手段を「現金以外」と答えた人の理由】



【決済手段を「現金」と答えた人の理由】



【キャッシュレス決済 1カ月の平均額】



## ～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

### ■明治安田総合研究所チーフエコノミスト 小玉 祐一



●今回の調査では、前回は半分だったキャッシュレス派の比率が約7割にまで上昇しました。日本では現金の利便性が高く、主要国よりもキャッシュレス化の流れが鈍いことが常々指摘されてきただけに、驚くべき結果と言えます。

調査結果をみると、ほぼすべての年代でキャッシュレス決済が浸透しており、必ずしも若者が先導しているわけではないようです。かくいう私も昨年、現金派からキャッシュレス派に鞍替えした一人です。財布に小銭がたまらず、薄いままで持ち歩ける快適さはなかなかのものがあります。

調査では、ポイント等の経済的メリットを挙げている人が約6割と一番多くなっています。民間のキャンペーンに加え、政府も昨年の消費増税時に、大規模なポイント還元策を実施しました。今秋には、マイナンバーカード決済への「マイナポイント」の開始も予定されています。足元では10%台にとどまっている同カードの普及が進めば、「巣ごもり消費」の長期化も相まって、本格的なキャッシュレス社会到来への道を開くきっかけになるかもしれません。

## 2. 貯蓄額について

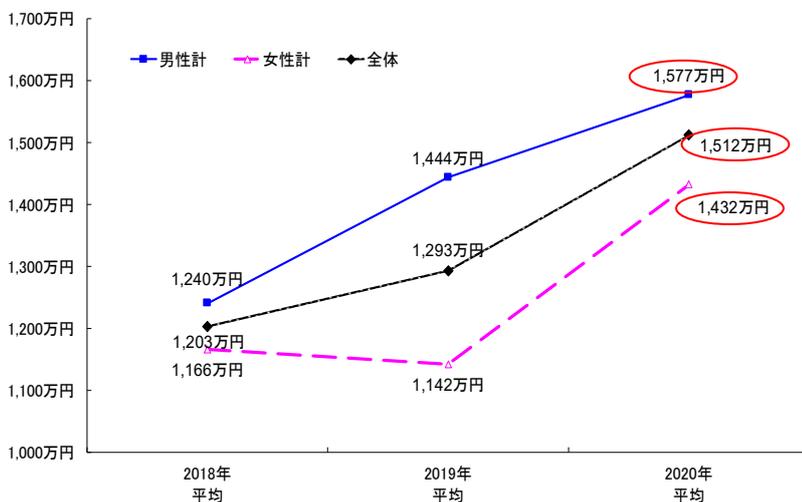
貯蓄額は年々増加し、平均「1,512万円」と1,500万円を突破！

- 世帯の貯蓄額と貯蓄の目的について聞いてみました。
- 全体では、平均「1,512万円」となり、昨年の「1,293万円」より219万円増加しました。
- 男女別にみると、男性は昨年より133万円増加、女性は290万円の増加となり、さらに年代別にみると、いずれも60代～70代では2,000万円を超えました。
- 貯蓄の目的は、「将来のため」がトップとなり、次いで「いざという時のため」、「子どもの教育資金のため」と続く結果となりました。
- 「人生100年時代」をふまえ老後資金の備えが年々増加傾向にあるなか、新型コロナウイルス感染拡大に伴う将来への不安が重なることで、貯蓄額はさらに増加する可能性もあります。

### Q. 世帯での貯蓄はいくらありますか（金額回答）

	回答者数 (人)	0円 (%)	～100万 円未満 (%)	～300万 円未満 (%)	～500万 円未満 (%)	～1000万 円未満 (%)	～1500万 円未満 (%)	～2000万 円未満 (%)	～3000万 円未満 (%)	～5000万 円未満 (%)	5000万円 以上 (%)	平均 (万円)
全体	1,016	12.0	7.3	14.4	10.8	15.9	8.6	3.9	9.4	9.1	8.7	1,512
男性計	561	9.4	6.1	14.6	10.9	17.5	9.8	4.3	10.2	8.9	8.4	1,577
20代	94	2.1	14.9	33.0	16.0	18.1	11.7	1.1	2.1	1.1	-	432
30代	95	6.3	8.4	15.8	16.8	30.5	7.4	2.1	5.3	2.1	5.3	1,179
40代	91	12.1	2.2	14.3	8.8	27.5	11.0	1.1	9.9	8.8	4.4	1,272
50代	93	10.8	3.2	10.8	9.7	11.8	11.8	4.3	15.1	10.8	11.8	1,946
60代	97	10.3	2.1	5.2	6.2	10.3	11.3	8.2	15.5	14.4	16.5	2,392
70代	91	15.4	5.5	8.8	7.7	6.6	5.5	8.8	13.2	16.5	12.1	2,233
女性計	455	15.2	8.8	14.1	10.8	14.1	7.0	3.5	8.4	9.2	9.0	1,432
20代	86	17.4	16.3	24.4	23.3	15.1	3.5	-	-	-	-	252
30代	81	11.1	9.9	24.7	16.0	18.5	6.2	2.5	4.9	3.7	2.5	736
40代	75	20.0	16.0	12.0	6.7	12.0	9.3	5.3	4.0	9.3	5.3	1,047
50代	65	15.4	4.6	10.8	7.7	16.9	6.2	4.6	15.4	6.2	12.3	1,707
60代	77	18.2	2.6	5.2	6.5	11.7	10.4	2.6	13.0	13.0	16.9	2,348
70代	71	8.5	1.4	4.2	1.4	9.9	7.0	7.0	15.5	25.4	19.7	2,819

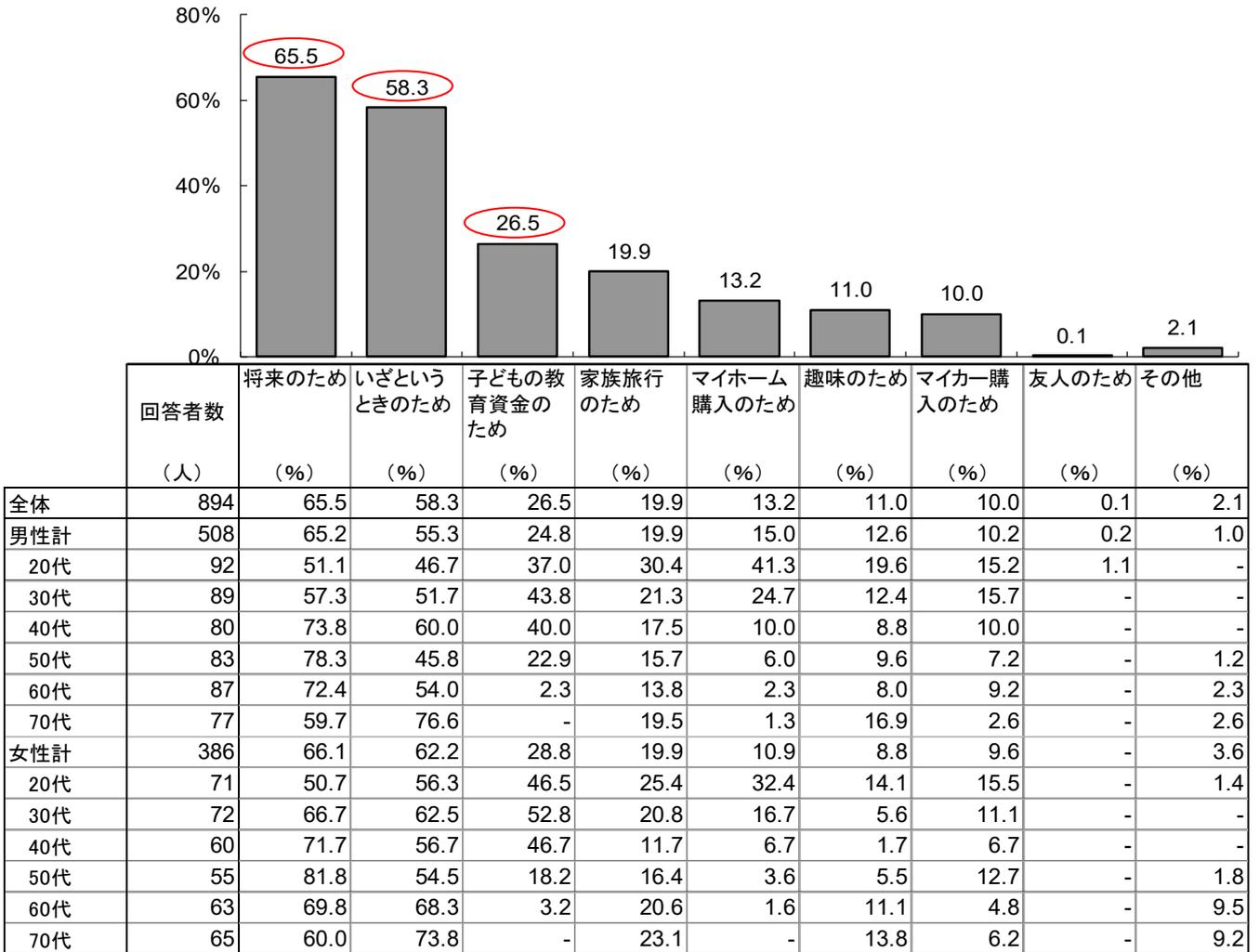
### 【過去3年間の貯蓄額（平均）の推移】



### <性別／年代別>

	2018年 平均	2019年 平均	2020年 平均
全体	1,203万円	1,293万円	1,512万円
男性計	1,240万円	1,444万円	1,577万円
20代	322万円	576万円	432万円
30代	532万円	950万円	1,179万円
40代	1,241万円	875万円	1,272万円
50代	1,504万円	1,558万円	1,946万円
60代	2,167万円	2,320万円	2,392万円
70代	1,676万円	2,382万円	2,233万円
女性計	1,166万円	1,142万円	1,432万円
20代	240万円	504万円	252万円
30代	386万円	651万円	736万円
40代	659万円	769万円	1,047万円
50代	1,240万円	1,051万円	1,707万円
60代	1,898万円	1,607万円	2,348万円
70代	2,570万円	2,270万円	2,819万円

Q. 貯蓄の目的は何ですか（複数回答）



～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所チーフエコノミスト 小玉 祐一



●今回の調査では、貯蓄額が昨年調査時から17%増加し、1,500万円を突破しました。「将来のため」という目的が65.5%で一番多くなっていますが、50代ではこの割合が男女とも8割前後なのに対し、20代では5割前後にとどまっています。50代では「子どもの教育資金のため」との回答が急減しており、子育てを終えた層が自分の老後を見据えて本格的に貯蓄を開始している様子が見て取れます。実際、貯蓄金額は50代から急増しており、女性では20代と70代で10倍以上の差があります。若年層は、遠い将来のことはなかなか考えられないものですが、貯蓄は期間が長いほど金額が少なくて済み、失敗からのリカバリーも容易という利点があることも理解してほしいです。

今後は、新型コロナウイルス感染拡大への不安から貯金を増やす家計が増える可能性がある反面、所得の減少した世帯は逆に貯金を取り崩して消費に充てざるを得ず、短期的には複雑な動きを見せるかもしれません。